

# 企業におけるベトナム人研修生 に対する日本語指導の報告

八嶋康裕 井上里鶴 中尾菜穂 中谷あゆみ

## 1. はじめに

筆者らは、麗澤大学オープンカレッジ・学習コーディネイト「日本語学習支援」として行われているSMC株式会社（以下、SMC）における日本語指導に携わった。本報告では、筆者らが取り組んだ日本語指導の概要および指導上の工夫について報告する。

## 2. 日本語指導の概要

SMCで研修を受けているベトナム人社員（以下、研修生）10名を対象に日本語指導を行った。期間は2015年10月から2016年4月にかけて全3ターム実施した。指導は1日3時間行い、総指導時間数は375時間であった。各タームにおける主な指導内容を表1に示す。

当初、SMCから本日本語指導に対する要望として、「研修生が帰国した後、現地のSMC支社で働く日本人社員と意思疎通ができる日本語力をつけてほしい」「研修生の日本語レベルを確認したい」「語学の習得に併せて日本文化への理解も深まるような授業をしてほしい」といったものがあつた。そこで、筆者らの日本語指導の目標は、①日本人社員とやりとりができる日本語力の獲得をめざす。②日本語レベルの情報開示および実際に確認できる機会を提供する。③日本文化への理解を促進する。の3点とした。

## 3. 指導上の工夫

### 3.1 目標①：日本人社員とやりとりができる日本語力の獲得をめざす

表1の通り、全タームを通して「話す」「聞く」を中心とした総合日本語の指導と日本文化理解に重点を置いた。そのため、主教材には『まるごと』（国際交流基金）を使用し、音声インプット、会話練習、文化的要素を豊富に盛り込んだカリキュラムを組んだ。また、日本での生活やその後の研修において、漢字も必要になることが予想されたため、『ストーリーで覚える漢字300 英語・ベトナム語版』（くろしお出版）を使用し、初級漢字の導入も行った。さらに、第2タームで始まった研修生のOJTへの日本語支援として、現場の専門用語を中心にオリジナルの語彙表を作成した。

### 3.2 目標②：日本語レベルの情報開示および実際に確認できる機会を提供する

主教材、漢字、文法などの到達度テストを定期的実施することで、指導期間中の学習到達度を測った。それらの結果は全て、講師および研修生間で共有するだけでなく、各ターム終了時にはSMCに提出した。また、第2タームのカリキュラム検討時には、「日本語の客観的な習熟度を確認したい」という要望に応えるべく、評価基準の一つであるJLPTの対策教材を利用し、模試を行うことで、日本語レベルを確認する機

表1 日本語指導の期間と主な指導内容

ターム	期間	主な指導内容
第1	2015年10月21日 ～2016年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す」「聞く」を中心とした総合日本語の指導</li> <li>・基礎的な漢字と語彙の補填</li> <li>・日本文化理解の促進</li> <li>・スタディツアー・レポート作成、スピーチ大会実施</li> </ul>
第2	2016年1月18日 ～2016年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す」「聞く」を中心とした総合日本語の指導</li> <li>・JLPT対策教材を利用した日本語力の確認</li> <li>・日本文化理解の促進</li> <li>・ポスター発表会実施</li> </ul>
第3	2016年4月1日 ～2016年4月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す」「聞く」を中心とした総合日本語の指導</li> <li>・専門語彙の習得支援</li> <li>・日本文化理解の促進</li> <li>・ポスター発表会実施</li> </ul>

会を設けた。さらに、各タームの終了時にはスピーチ大会やポスター発表会を開催し、習得した日本語を実際に使用する機会を提供すると同時に、学習成果を多くのSMCの社員に見てもらえるよう積極的に参加を呼びかけた。

### 3.3 目標③：日本文化への理解を促進する

全タームを通じて『まるごと』（国際交流基金）を主教材として使用し、日本文化理解の促進に努めた。また、指導期間中にはビジネスマナーや四季の行事の紹介、茶道などの文化体験、つくば市の研究所へのスタディツアー開催などを取り入れながら、多様な形で日本文化への気づきや理解を促す機会を提供した。さらに、スピーチ大会やポスター発表会におけるテーマ選択では「日本の文化」を題材に発表する者がおり、調べ活動や自分自身の経験から日本を捉え直す姿も見られた。

## 4. 成果と今後の課題

終了時に行った研修生へのアンケートでは、10名中9名の研修生が日本語力の伸びを実感していることが分かった。また、SMCの日本人社員10名へのアンケートからは、研修の成果を問う項目について、「研修生と日本語でコミュニケーションがとれるまで上達したのが素晴らしい」「日本語だけではなく、日本の文化やマナーなどの理解も先生方から多くを学んだと思う」など肯定的な声が多く聞かれ、本日本語指導の目標は概ね達成できたと言える。一方、「今後の専門分野の研修でより難しい言葉や内容に今の日本語力で対応できるか」という問いについては、現時点での日本語力では不安だという声も聞かれた。研修生個々の、現場に即したより専門的な日本語指導の可能性を探っていくことを今後の課題としたい。